



明るく広々とした白壁の玄関。入口を入ると磨き上げられた板壁と、堂々とした極太の柱に目を奪われる。奥に見える囲炉裏の炎が訪れるお客様の心も和ませるようだ

Case study 02: 古民家再生リフォーム [高山市]

110年前の匠の技を 色濃く残す民家を 光と風の踊る モダンな家に再生

(株)Robin 本誌P00 取材・文＝倉畑美奈子 (Robin)



民家の語らいの場をイメージした吹き抜けの囲炉裏

先代からの財産を守り
昔日と現代の良さを融合

現代住宅では少なくなった極太の梁や柱。先代から受け継がれ、家族を守ってきた築110年の家を自分の代でリフォームすることになった足立さん。古くても、どしりと力強く立つ、この家の良さ残せるように古民家再生リフォームを選ばれました。リフォーム前の家は経年化に加え、窓や建具も現代のようないアルミのサッシではなく木製の戸であったため、隙間風がひどかったとか。寒さの厳しい飛騨地方の冬を過ごすのは辛かったそうです。一方で夏は風が家を通り抜け、また土間があると田畑からの行き来もしやすく便利な一面も。仕事の傍ら田植えや畑仕事もしている足立さんが、利便性の良い古民家の造りを今回のリフォームに取り入れたこと、また自然素材を優先して選ばれたのはごく自然なことでした。

大きな家を生かした間取設計をし、無垢フロアや塗り壁などの良質な無垢材を中心に使用。一方でシステムキッチンなど、現代の生活に合わせて取り入れた部分もあります。薪ストーブはご主人の一番の希望で、お母様も薪ストーブのある畳敷きのリビングでゆるりとくつろいでおられます。

1.2階プライベート空間へは贅沢にも一本のひきを割って作った白木の階段 2.畳に薪ストーブ。一見アンバランスな取り合わせがモダンで斬新な和室になった 3.かつて養蚕を営んでいた暗くて寒い2階部分が、十分な採光をとった主寝室に 4.囲炉裏から梁の一本一本を抜け上へと続く吹き抜け 5.最新のシステムキッチンで家事もスムーズに



DATA

- 種別／戸建て ■築年数／110年
- 家族構成／母+夫婦+子ども3人
- 工期／3カ月
- 延床面積／000㎡ (00坪)
- リフォーム面積／000㎡ (00坪)
- リフォーム箇所／全面+増築
- 施工／(株)Robin